

疾患名

溶血性尿毒症症候群

病気について

溶血性尿毒症症候群は、志賀毒素産生性大腸菌感染症に続発する場合、補体調節因子異常による非典型溶血性尿毒症症候群、何らかの併存病態に合併する二次性などに分類され、症状として溶血性貧血、血小板減少、急性腎不全や多臓器不全を呈する重篤な疾患です。

治療について

治療は輸液や血圧管理などの全身管理が主体です。補体関連の非典型溶血性尿毒症症候群では、免疫抑制剤と血漿交換による抗体価の減少が期待されるものの、十分な効果が認められない場合補体に対する抗体療法への橋渡しとしてアフェレシス療法が行われます。

アフェレシス療法の適用とその実施

保険適用：あり

アフェレシス療法の種類：血漿交換

回数：一連につき21回を限度として行います。